

令和7年度 都城市立庄内小学校 学校評価報告書

評価項目		評価内容・基準	学校の自己評価				学校関係者評価(学校運営協議会委員)		
			職員	児童	保護者	分析・考察	評価	学校評価に対する意見	
1 学校経営ビジョン 多様性を理解し、良さを見つけて伸ばす教育を推進するとともに、しなやかさをもった温かみあふれる学校を構築する。重点目標として掲げた「子どもたちが主役の授業の実践」「健やかな心身の育成」「主体的な社会の形成への参画」の実現に向けて、リーダーシップを発揮するとともに、意図的・計画的・組織的に教職員の人材育成を図る。									
2 学校自己評価及び学校関係者評価 4段階評価 【4:期待以上(80~100%) 3:ほぼ期待通り(60~79%) 2:やや期待を下回る(30~59%) 1:改善を要する(0~29%)】									
学びづくり	「子どもが主役の授業」の実現	① 学習規律の徹底と学習のきまりの遵守	○ 学習規律を徹底し、安心して学べる環境を整えている。 ○ 忘れ物がないようにしっかり準備をし、一生懸命授業に臨んでいる。	3.2	3.4	3	今後も学習規律を徹底し、安心して学べる環境を整えていく。忘れ物ゼロは、家庭と連携した取組を継続したい。	3.5	「安心して学べる環境づくり」を目的としている点が評価できる。
		② 「わ・さ・び」を意識した授業実践	○ 話し合い活動や協働的な活動を積み重ね、子どもたちが主役になる授業を行っている。 ○ 話し合い活動に積極的に参加したり、友達と協力して学習したりして、学びが深まる学習を行っている。	3.3	3.6	3	児童は、話し合い活動や協働的な活動に楽しさと手応えを感じている。学びが深まる対話の質の向上に向け、教員のコーディネート力をさらに高める必要がある。	3.6	教師の考えや児童の意見を押しつけることなく、自発的な考えがうまれることに期待できる。先生方の指導力に期待する。
		③ 一人一台端末の活用による、基礎・基本の徹底	○ タブレットやAIドリルを活用し、個別最適な学びになるようにしている。 ○ 保護者と連携した家庭学習や学びタイム、習熟の時間の確保により学びの見届けや学びの確認を行っている。 ○ できるまで粘りよく練習問題や家庭学習に取り組んでいる。	3.2	3.6	3.2	タブレット活用は児童に定着している。AIドリルの効果的な活用を図り、個別最適な学びを進めていきたい。	3.7	PCを使ったプレゼンやまとめに関しては将来的に必ず役立つ。タブレット活用と同時に文字を書くことも大切にしていきたい。
		④ 読書活動の推進	○ 図書館サポーターと連携した読書の質を高める読書活動の推進と年間貸出冊数100冊以上を目指す。	3	3.6	2.6	図書館サポーターとの連携は充実しているが、家庭での読書習慣の定着や、取組の成果を保護者へより具体的に発信することが課題である。	3.1	図書館サポーターとの連携は評価できる。質の向上にも取り組んでほしい。また、読書や感想文の推進を工夫したい。
心づくり	人間関係の拡大と社会性の涵養	① 縦割り班活動の積極的な活用	○ 異学年交流により、互いを理解し助け合う心が育っている。 ○ 縦割り活動は、他の学年の人と交流が楽しい。	3.3	3.5	3	今年度からの取組である1~6年生の縦割り班は、教師・児童ともに肯定的に捉えており、助け合う心の育成に寄与している。	3.8	立場や年齢の異なる相手と接することで思いやりやリーダーシップが育っている。良好な仲間意識も育まれる。
		② 命を大切にできる教育の充実	○ 道徳や特別活動を充実させ、命を大切にできる教育を積極的に行っている。 ○ 自分や友達、命あるものを大切にしている。	3.5	3.8	3.5	全体的に評価が高い。毎月の「命を大切にできる日」の取組や腰塚勇人氏による「命の授業」によっても自他の命を大切にできる心が育まれている。	3.7	とても大切な教育であり、積極的な取組ができている。多様性が重視される中、社会の一員としての責任感を育むことが大切である。
		③ 「時を守り場を清め礼を正す」「右一静歩」の実践化	○ 1分前着席や時間を守る行動ができている。 ○ 約束した時間を守ることができる。(学習、遊び、メディア等)	3.3	3.1	2.9	時間の遵守に関する保護者の評価はやや低く、生活習慣としての定着に差が見られる。	3.1	時間を守ることも大事だが、時間にゆとりをもってほしい。
			○ 掃除や整理整頓ができ、環境を整えている。	3.2	3.6	2.4	掃除・整理整頓に対する保護者評価が厳しく、学校での実践が家庭に繋がるとよい。	3.3	ぜひ家庭を巻き込んで実践してほしい。
			○ あいさつや会釈、返事ができている。 ○ 「右一静歩」がしっかりできている。	3.1	3.8	3.2	挨拶や会釈はよくできている。返事は継続して指導していきたい。	3.7	地域住民に対する挨拶は指導の成果である。挨拶や返事は、人間関係を築く第一歩なので継続してほしい。
		④ 「心のプレゼント運動」の実施	○ 「心のプレゼント運動」では家族の目標を決め、進んで取り組んだ。	3.2	3.4	3	なぜ走ったらいけないか理解させ、その場指導を共通して実践していく。	3.4	その場指導はより効果的である。急がない気持ち、ゆとりをもたせたい。
⑤ ふるさと教育の推進	○ 生活科や総合的な学習の時間に庄内地区のよさについて進んで学んでいる。	3.3	3.6	2.9	郷土愛を育む教育活動を今後も継続する。保護者へ積極的に発信していく必要がある。	3.3	郷土を知り理解することはとても大切なことであり一層充実してほしい。		
健康・安全づくり	健康・安全意識の向上と実践化	① 立腰指導の徹底	○ 学級活動、保健指導、常時指導を通して、立腰が身に付くようにしている。 ○ 立腰を意識し取り組んでいる。	3.3	3.1	2.9	常時指導を通して立腰が身に付いてきた。習慣化をさらに促していく。	3.5	庄内小の子どもたちは、姿勢がよい。立腰が根付いている。
		② 体力の向上	○ スクールスポーツプランに沿って授業中の活動の場を工夫したり、体育的行事を活用したりして体力の向上を図っている。 ○ 体育の授業や運動会、持久走、なわとびなどで進んで自分の体力向上に取り組んでいる。	2.9	3.6	3	スクールスポーツプランに沿った授業の中での活動をさらに工夫する必要がある。運動会や持久走等の行事を通じた充実感が児童の評価に繋がっている。	3.2	熱中症など配慮しなければならないため、夏場の取組が厳しい。体育館にエアコンが付くとまた違ってくる。
		③ 健康的な生活リズムの育成「目の健康とメディアコントロール」	○ 学校保健委員会の取組や健康週間、常時指導を通して、健康的な生活リズムが身に付くようにしている。 ○ 健康的なリズム(早寝・早起き・朝ご飯)を心掛け、メディアの約束を守り目を大切にしている。	3.1	3.3	3.1	メディア利用のルール作りは喫緊の課題である。健康週間等の取組を通じ、早寝・早起き・朝ご飯の重要性を家庭と共に啓発していきたい。	3.1	ノーメディアの活動は評価できる。健康維持は家庭での生活が大きく影響するものであり、学校・家庭・地域の三位一体の取組が重要である。
学校ぐるみによる	地域づくり	① 学校運営協議会の充実や学校支援ボランティア活動を通じた地域人材・素材の積極的活用	○ より良い学校になるよう地域と連携した取組を行っている。 ○ 地域の人と積極的に交流し、地域のよさや歴史や文化を積極的に学習している。 ○ 年間指導計画に位置付けて、まちづくり協議会や学校支援ボランティアを積極的に活用している。	3.2	3.2	2.7	地域との連携は図られているが、保護者評価がやや低い。まちづくり協議会やボランティアとの交流の様子を、より積極的に可視化する必要がある。	3.3	地域との連携を図る為、学校の積極的な情報発信が評価できる。学校運営協議会、支援ボランティアの活動が保護者に十分伝わりきっていないのではないだろうか。
		② 学校と家庭・地域が互いに情報発信・収集	○ 学級通信・学校たより・HPによる情報発信とシグファイ等を利用した情報発信を積極的に行い、学校・家庭・地域の連携を図っている。 ○ 学級通信をよく見ている。	3.5	3.4	3.3	HPやシグファイ、学級通信による情報発信は安定して高い。今後も双方向のコミュニケーションを意識した情報共有に努める。	3.6	地域と共にある学校という面では、情報発信による連携は継続できている。一方だけでなく、双方向を密にする必要がある。
人材育成	教職員の	① 1人1回の研究授業や授業動画撮影(年2回)による授業改善	○ 研究授業や授業動画撮影(年2回)による授業改善を行い、指導力向上に努めている。	3.3	3	3	年2回の授業動画撮影や全員の研究授業を通じ、客観的な振り返りと指導力向上に取り組むことができた。	3.7	継続してほしい。先生同士の相互の連携が子どもたちに対していている。
		② 教職員評価や宮崎県教員育成指標を活用し、役割を自覚した業務の取組による資質の向上	○ 教職員評価や新しい研修制度を活用した資質向上に取り組んでいる。	3.2	3	3	研修制度の活用により、各自が役割を自覚した業務遂行に努めた。組織的な人材育成を継続していく。	3.7	働き方改革の面で、時間外勤務の様子は、学校全体の課題である。